

(株)横山工芸

北陸企業の針路

横山工芸

生地染色に使う版づくつかあるが、外部から買い付けを掛ける横山工芸(福井市)が今年春立ち上げた和太鼓チーム向けの衣装専門店「オーダー太鼓衣装屋」の技術を生かし、色や柄「ドーン」は、同社が過去約40年間に培った技術を生かしたネットショップ。織維産地の横の連携を武器に、色や柄だけでなく生地にもこだわった衣装を選ぶことができる。既存のネットショップ事業とともに、縮小気味の製版事業を補完する新たな収益源という位置付けだ。

太鼓衣装を手掛けるネットショップは全国にもいくつかあるが、外部から買い付けを掛ける横山工芸(福井市)が今年春立ち上げた和太鼓チーム向けの衣装専門店「オーダー太鼓衣装屋」の技術を生かし、色や柄「ドーン」は、同社が過去約40年間に培った技術を生かしたネットショップ。織維産地の横の連携を武器に、色や柄だけでなく生地にもこだわった衣装を選ぶことができる。既存のネットショップ事業とともに、縮小気味の製版事業を補完する新たな収益源という位置付けだ。

和太鼓衣装、個性染める



定番の法被と異なる個人的なチーム衣装が作れる

ネット販売生地から選択

和太鼓には全国的にも注目が集まっているため「一定以上の市場がある」と判断。よさこい祭りは開催時期の関係で、衣装の注文も春から夏に集中する。この季節性を補うためにも、演奏会が年間を通じて開かれる和太鼓の世界は魅力的だった。衣装は上下一式で平均2万円と安くはないが、

消費者との結び付きカギ

社会や市場が成熟すれば一律の商品では満足できず、「自分だけのオリジナル商品」を作りたい消費者は増える。嗜好性が強い衣装ではその傾向が顕著。染色用版メーカーの多くが廃業に追い込まれるなか、一般の消費者にプロの技術を広く開放することに活路を見いだした同社の戦略は、こうした時代の流れに合致している。

(福井支局 小山隆史)

自社にない技術や素材が必要な場合は、協力を求める。よさこい屋。全国各地で他県の同業者に比べ生地を含めた選択肢が多いため、顧客の予算に応じてコストを抑える方法を「複数提案できる」という。

太鼓衣装屋を始めるきっかけは、当時既にスタートから6年たった同社の

既に20チーム以上から注文を受けている。同社の本業は生地を染めるのに使う版の製作。繊維産地の北陸ではかつて30社近い版メーカーがあり、大手の染色業者に製品を納め

あ「る」との信念から参入を決め、今では年間約1億5000万円ある同社の売上高の4割近くを占めるようになった。今後はダンス、太極拳とといった分野の衣装も1つずつ手掛けていく方針で、「そのために必要な設備投資も惜しまない」考えだ。

北陸

金沢支局 00776-2332-4331
富山支局 0776-4332-3446
福井支局 0776-2221-34903